

音楽の世界で今何が起きている??

阿部 竜之介 『Pepeの視点』

March / 9 / 2018 # 60

Trombone & Euphonium奏者の阿部竜之介(Pepe)です。

このメールマガジンでは、僕から見た今の音楽の世界で起きていること、また演奏に関するヒントなどをお届けしていきます。

またメルマガ内でもいろいろな質問に答えていこうと思っていますので、どんどん質問してきてくださいね！

INDEX

- [1] 旬な話題、気になる話題
『コントロール』
 - [2] Pepeのひとりごと
『デクレッシェンドとディミニユエンド』
 - [3] おすすめ動画
『Trombonsillo - Carolina Calvache』
『Cousins (Herbert L. Clarke)』
 - [4] 演奏のヒント！
『音量のコントロール』
 - [5] 編集後記
-

[1] 旬な話題、気になる話題

『コントロール』

「演奏のテクニック」というものを別の言い方をすると、「コントロール」だと思っています。全てを思いのままにコントロールするために必要なことが「テクニック」と呼ばれているように僕は前から感じています。

やってみるとすぐにわかると思いますが、演奏表現上何かをやるうとすれば、それをするためにいろいろなものをコントロールしないと

いけません。

簡単な例を出すと、例えばクレッシェンドやディミニユエンド。
言われたところで言われたようにクレッシェンドやディミニユエンドを
やろうとすると、うまくできないこともあります。

それはどうしてか？

うまくコントロールできていないからなんです。

伸ばしの音のときには多くの人がある苦勞もなく思いのままに
クレッシェンドやディミニユエンドができると思います。
それは、音を伸ばすことと音量を変化させることそれぞれが
コントロール下であって、思いのままにコントロールが
できているからなんです。

それが、音が上行（下行）していたり跳躍していたり、速いタンギング
だったりリップスラーが間にあったりするとうまくできなくなって
しまうのは、その何かがコントロール下に置かれていないからなんですよね。

思い通りにいろいろな音型を吹けるようにするため（コントロール下に
置くため）には、テクニックが必要となってきます。
その訓練に役に立つのが基礎トレーニングや様々なエチュードを使った
練習だと僕は個人的に思っています。

フォルテでメロディーを演奏中、音によって音量が変わってしまっている
残念な奏者を時折耳にしますが、こうなってしまうようではいけないと
思っています。

自分の演奏をチェックして、きちんとすべてをコントロール下に置いて
音楽表現をしていけるように、お互い頑張っていきましょうね！ :D

[2] Pepeのひとりごと

『デクレッシェンドとディミニユエンド』

多くの人がある音量を小さくしていくことを「デクレッシェンド」と
言っていると思いますが、僕は昔からほとんど「デクレッシェンド」という
言葉は使わず「ディミニユエンド」という言葉を使います。

（先月号の「演奏のヒント！」でもディミニユエンドという言葉を使
っていました）

小さな小さなこだわりなのですが（笑）、「ディミニユエンド」と「デクレッシェンド」には少し違いがあります。

「デクレッシェンド」にはクレッシェンドを反対の意味にするというニュアンスがあって、「クレッシェンドの反対のことをする」という意味合いになります（簡単に説明しています）。

そして「ディミニユエンド」には、その言葉自身に「だんだん小さくする（もとの意味は減らす）」という意味があります。

多少乱暴に日本語にすると

デクレッシェンド＝大きくすることの反対のことを少しずつやる
ディミニユエンド＝少しずつ小さく（弱く）する

という違いです。

（今気づいたけど、カタカタで書くと同じ文字数なんですねえ。笑）

伝えたいことがうまく伝わっているのか自信がないのですが、例えば、「前進の反対のことをする」と「後進」や、「右の反対側へ曲がる」と「左折」との違いという感じです。

伝わりますかね？

後者のほうが直接的なんです。

感覚的なことなのですが、僕は個人的に「デクレッシェンド」という遠回しな言い方（？）よりも、直接的な「ディミニユエンド」という言葉のほうがより「だんだん弱くする」という意味合いを感じることができます。

みなさんはどうですか？

*ちなみに、海外の人は主にDiminuendoという単語を使っているように思います。

[3] おすすめ動画

『Trombonsillo - Carolina Calvache』

https://www.youtube.com/watch?v=2vkY0Tj4px0&feature=em-subsub_digest

今月の1つ目の動画は、僕の友達でもあり尊敬もしているスウェーデンのTrombone奏者のHåkan（Björkman氏）の演奏です。

Håkanは長い間王立ストックホルム歌劇場の首席Tromboneを務め、現在はスウェーデン放送響の首席Trombone、そしてヨーロッパ室内管弦楽団の首席Tromboneをやっています。

演奏もいいのですが、曲も素敵ですよねぇ。 :)

この曲、知ってすぐに購入したのですが、未だ演奏の機会がないままです（涙）。
どこかで僕も演奏したいと思っています！ :D

『Cousins (Herbert L. Clarke)』

[https://www.youtube.com/watch?](https://www.youtube.com/watch?v=P8hr4DfA2l8&index=2&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg&t=0s)

[v=P8hr4DfA2l8&index=2&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg&t=0s](https://www.youtube.com/watch?v=P8hr4DfA2l8&index=2&list=FLMnqqdLPBhh36yGuKu08PSg&t=0s)

CornetとTromboneのデュオの超有名曲ですね。

でも、僕は演奏したことがありません……。この曲、ピアノ伴奏版はあるんですかねえ？

演奏機会もないので探したことすらありませんが（笑）、機会があるとやってみたい曲の一つです。 :)

[4] 演奏のヒント！

『音量のコントロール』

「音量のコントロール」というと、多くの方は「音量を変化させること」についてだと思ってしまう。

でも、「同じ音量を保つこと」も立派な「音量のコントロール」の一つなんですよ（しかも全く簡単ではない!!）。

例えば、ゆっくりなテンポで音階を2分音符で同じ音量で吹いてみましょう。
もちろん、ブレスの前後の音量も全く同じになるように集中して。

やってみると、すごく難しいし大変なことだということがよくわかる
と思います（集中力もかなり必要です）。 :)

エチュードでも曲の練習でもいいので、一度フォルテ一つの音量で全てを
吹ききる、ピアノ一つの音量で全てを吹ききるという練習をしてみてください。

とっても大変なことだと痛感すると思います（笑）。

簡単だと思ってしまいがちで普段の練習に取り入れている人はほとんど
いないと思いますが、こういうものは普段から練習しておかないと、
「できている気になる」可能性の高いテクニックなんですよ。

しっかり基礎トレーニングの一つとしてこういう練習にも取り組んでみて
ください。

派手に目立つことはないけど、自分の演奏のしっかりとした骨組みと
なることは間違いありません。

*この練習は1人でやってもわかりにくかったりするので、誰かと一緒に練習をすることをおすすめします。そうすると、自分と一緒にやっている人の音量が一定じゃない場合、気づきやすいんです。 ;)

編集後記

このメールマガジンも、今号が第60号！
おかげさまで、まる5年が経つようです。 :D

このメールマガジンを始めたのは、ちょうどバンド・ジャーナル誌のワンポイントレッスンを担当させていただいたときと同じタイミングでした（それぞれ毎月締め切りがあるので大変でしたが、思い切って始めてみました）。

ちょうどこの60号、丸5年を経過するときに、バンドジャーナル誌でとある企画のトロンボーン、ユーフォニアムのところを担当させていただきました。

何という偶然！ ;)

（ちょうど今日か明日発売になると思います）

今のところやめるつもりはないのですが、「演奏のヒント！」の項目での書くことが、最近なかなか思いつきません・・・。

もう5年も経っているのなら過去に書いたことがあるかも？と思うことをもう一度書いてもいいのかな？とも思っています（そういうものにかぎって、つい数ヶ月前に書いていたりして。笑）。

読者のみなさん、ぜひ「演奏のヒント！」で取り上げてもらいたいものや質問などがあれば気軽にメールで書いてきてくださいね。

お願いします！・・・助けてくださ～い。 ;)

阿部 竜之介(Pepe) オフィシャルウェブサイト

<http://www.pepeabe.com>

ご意見、感想、質問などはメールでどうぞ！

info@pepeabe.com

©阿部竜之介 『Pepeの視点』

のバックナンバー、配信停止はこちら

<http://www.mag2.com/m/0001601194.html>

